



# さわやか トカラ情報

〒892-0822  
鹿児島市泉町13番13号  
TEL099-227-9771

発行  
十島村教育委員会

## 【多様な子どもたち!一人一人を大切に!!】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

(1) 卒業生が14人(島立ちに向けて懸命に頑張っています。)

地元の生徒はもちろん山海留学生の9年生も、出身地の高校や、また新たな新天地を求めてまったく別の地域にある高校を目指す子もいます。第一希望の私立高校に合格し、安堵している生徒もいますが、公立高校が第一希望の生徒も3月の入試に向けて、全力で取り組んでいるところです。どうか温かく見守っていただけると幸いです。

(2) 人(親や教師、友達など)を困らせる行為に出る子どもへの対応

さて、人を困らせるような行為に出るタイプの子(どうしたらいいか、実は本人が一番困っている)へはどう対応したらいいのでしょうか。様々な事例を通して感じていることがあります。

◎ 同じ目線で、真正面から向き合い続けること、途中で見捨てたり諦めたりしないことです。

- ・ 話の途中で質問を入れない(話の腰を折らない)。
- ・ 嘘だと分かってすぐにとがめない。じっくり聞いてから矛盾や嘘に気付かせ改めさせる。
- ・ 真剣な表情で、目を見てゆっくりと聴いてあげる。
- ・ 「そうか、そうだったんだね。」「こうしようと思っはいたけど、そうやってしまったんだね。」
- ・ 「そういうこともあると思うよ。」「その言葉(態度)は、相手は悲しかったかもしれないね。」
- ・ 「あっそうか、だんだんそんな気持ち(自省)にもなって来たんだね、いいと思うよ。」
- ・ 「ありがとう、いろいろ話してくれて。」「嬉しかったよ、話ができて。」
- ・ 「一つずつ肩の荷物を下ろしていこうか、私(先生)も協力するよ。」「ゆっくりでいいよ。」

(3) かかわり続けた先に安心感と信頼感が!

言葉は、様々な表現の一つに過ぎません。子どもは身近な大人の愛に包まれた環境の中で、行為と言葉を結び付けながら心を成長させていきます。A:言葉も多く行為も多い子、B:言葉が多いが行為は少ない子、C:言葉は少ないが行為は多い子、D:言葉も少なく行為も少ない子。大別して4タイプです。普段からの観察を通して、子ども一人一人がどのタイプなのか見極めておくことが大切です。

私たちは、子どもの表情や仕草、目線や動きなど言葉以外の些細なことも把握し受け止めながら、教師としてのかかわり方に少しずつ変化を持たせ続けることが大切です。その先にきっと安心感と信頼感が生まれてきます。どの子も大切な未来からの預かりものです。将来を担っていく存在でもあります。

地元の子どもも、山海留学生もやがて大人になって、この十島村を支える存在になってくれることを、皆さんと共に期待したいと思います。

## 十島村で学ぶ

悪石島学園9年 西岡心暖

私は現在、悪石島で楽しく充実した寮生活を送っています。今回は、私の毎日の生活を紹介します。

平日の朝は、毎日6時15分に起き、朝食をとります。朝ご飯はパンの日と、ご飯とみそ汁の日があります。たまにパンケーキの日があり、その日はうれしくて1日のテンションが上がります。

朝食後は、掃除や洗い物など、担当の仕事を行います。仕事が終わると学校の準備をし、7時40分に学校へ出発します。私は毎日、7年生と一緒に登校しています。

学校が終わると、寮で勉強の時間があります。6時まで集中して取り組み、6時からはお風呂の時間です。悪石島には温泉があり、寮監さんが忙しいとき以外は、みんなで温泉に連れて行ってもらいます。

寮に戻ると夕食の時間です。毎日、栄養豊富でおいしい食事が用意されています。寮監さんが作ってくださるフランス料理で、新しい味を知ることができ、とても気に入っています。

寮生みんなで洗い物を終えた後は、就寝時刻の10時まで勉強をしたり、寮生同士で話をしたりして過ごします。何気ない話をしたり、寮監さんや寮生と関わったりするこの時間が、私はとても好きです。10時になると、みんな就寝します。

私が悪石島寮に来て、2年半ほどがたちました。1年目は、寮生と過ごす毎日がとにかく楽しかったです。寮生活を通して、「自分のことは自分ですること。」「周りを見て行動すること。」「人との関わりを大切にすること。」など、多くのことを学ぶことができたと感じています。

9年生になり、寮生の顔ぶれが大きく変わり戸惑うこともありましたが、これまでの経験を生かし、寮や学園でみんなをまとめ、一人一人と向き合いながら関係を築くことができたと思います。

卒業まで残りわずかですが、高校に進学してからも、寮生活で得た経験を生かし、自分の思う「最高の大人」になれるようがんばっていきたくです。



令和7年11月3日 南日本新聞「若い目特集」

## 青い海と島

小宝島学園 7年 畑本 歩汰

小宝島に来た時、フェリーから見た海の青さに驚いた。大阪では見られなかったきれいな景色に感動した。小宝島は、歩いて30分ほどで一周できる小さな島だ。亜熱帯のような気候で、学校ではバナナがとれるほどだ。

4月に転校してきたぼくには、驚きの連続だった。島には「タコの木」とよばれるガジュマルが目立つ。枝から根が伸びる不思議な形で、精霊が宿るとも言われている。

ほかにもアダンの木やハイビスカスなど、南国らしい植物がたくさんある。物ではヤシガニやトカラハブがいて、自然の力強さを感じる。

学校では、5月にサイクリングフェス、9月に運動会があり、一輪車で競う伝統行事もある。僕は一輪車にのれなかったけれど、教えてもらって校庭を1周回れる事ができるようになった。

僕はこの島でいろいろな経験をして、毎日を楽しみたい。

令和8年1月13日 南日本新聞「若い目」

## スマホの使い方

宝島学園 8年 竹内 楽花

今日はスマートフォンの使い方に関するオンライン授業があった。その中で私はたくさんのことを学び、再確認することができた。特に重要だと感じたことはインターネットに接続するという行為の重大さだ。

私は今までに特に深いことは考えず、交流サイト(SNS)に動画や写真を投稿していた。しかし、SNSの投稿から個人情報特定され、それにより自分や身近な家族、友人に危害が及ぶ可能性があることを知った。

授業の中では、同年代の人が関わっていた事件や事例を挙げて説明して下さった。ネットに関するトラブルを人ごとではなく「自分のこと」として捉えることができた。

これからは自分のアカウントの閲覧制限をしたり、個人が特定されるような情報は隠したりし、自分の身は自分で守れるようにしたい。今後は幅広いネットリテラシーも身につけていきたいと思う。



## 鹿児島県自作視聴覚教材コンクール入賞

○児童生徒の部

映像教材 最優秀賞

宝島紹介動画 (宝島学園 田中光結 竹内楽花)

デジタルコンテンツ 優良賞

平島太鼓のはじまりと平島太鼓の歴史  
(平島学園 北山帆泉)

○教育関係者の部

デジタルコンテンツ 優良賞

多様な性について考えよう(口之島学園 湯元千明)

## 【悪石島学園からのメッセージ】

悪石島学園 教諭 有馬 卓

悪石島に着任した昨年度、初めて特別支援学級を担当しました。児童一人の学級を担当し、日々丁寧に向き合いながら指導を行う中で、地域と学校の距離が近く、子供の成長を島全体で見守ることができる環境の中で教育に携われたことは、教員として多くを学ばせてもらう貴重な経験となりました。

一人一人の実態に応じた支援を重ねる中で、児童は一年生から二年生へと着実に成長し、学習や活動に前向きに取り組む姿が見られるようになりました。日常の中でその変化を保護者や地域の方々々と共有し、共に成長を感じられたことは、島ならではの良さであり、大きな励みとなっています。子供の成長を間近で感じ取りながら支援できることは、教員としての活力につながりました。

今後もこの経験を生かし、学び続ける姿勢を大切にしていきたいと考えています。